

今回行ったこと

研究方法

検証結果

進捗報告

佐藤 力

富山県立大学
u220029@st.pu-toyama.ac.jp

November 28, 2025

今回行ったこと

研究方法

検証結果

訓練損失と評価損失の推移比較

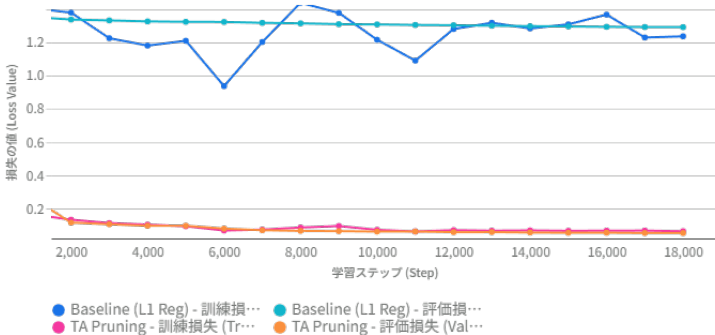


図 1: 推移比較

中間発表での指摘内容であった性能の向上となる原因を探るために進めていた。

以前まで検証したこと

TA Pruning (ターミナルアトラクタの機能とプルーニングの機能) の作製をした。

新しく検証したこと

TA Pruning からプルーニングの機能を抜き、ターミナルアトラクタのみを追加した学習法で検証した。

結果と考察

ステップ 1500 以降、損失は 0.06~0.03 の非常に低い範囲で安定して推移しています。これは、ターミナルアトラクタ項と通常の損失項が組み合わされた総合損失が効率的に最小化されていることを示している。しかし、ステップ 9300~9800 および 16200~17000 の間で、損失が一時的に大きく上昇しています。

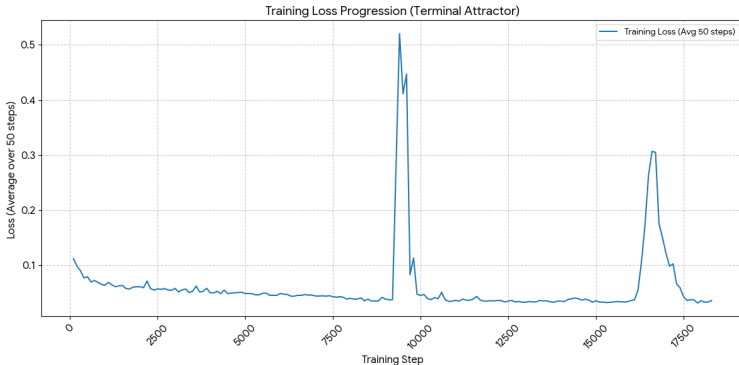


図 2: 推移比較